



創刊にあたって

今年度も、人権通信「ほっこり」を発行します。タイトルの「ほっこり」は、もともとは京都地方の言葉で、本来は「疲れた」「たいへんだった」という意味で使われていたそうです。しかし、最近では「ほっとする」「あたたかくなる」といった意味で使われていることが多いようです。

この通信の発行は年間を通して、道德の学習をはじめ、子どもたちの普段の様子の中にある「ほっこり」する一場面を、お伝えします。普段の子どもたちの取り組みや、学校での様子を保護者の方にお伝えできたらと思っています。その中で、人を大切にすること、自分を大切にすることについて、子どもたちが家族の方と一緒に語り合える機会になれば幸いです。

1年生のお手本になるぞ！（2年生）

5月。10連休明けから運動会の練習が始まりました。今年のダンスは、ゆずの「タッタ」。クラス毎に色の違うタンバリンを持って、動きやかかけ声、タンバリンの音を合わせて元気に踊りました。ダンスはもちろんですが、特に、立ち方、座り方など動いていない時の姿勢が、1年生のお手本になることを意識して、練習に取り組みました。互いにダンスを見せ合う時には、「2年生のダンスはうごきが大きくてカッコよかったです」「手がピンと伸びていてすごかったです」などと1年生から褒め褒めの言葉をもらって嬉しそうな2年生の子どもたち。反対に1年生にも「リズムにのっておどれていました」「かけ声が大きくてよかったです」などと褒め褒め返し。1年生も2年生もにこにこ笑顔になった運動会のほっこりタイムでした。おかげで運動会本番もばっちり大成功！「1年生を引っ張るぞ！」と頑張る姿に成長を感じた2年生です。



毎日の生活の中の「ありがとう」

～市内見学 青野ダム～（3年生）

水道の蛇口をひねれば、当たり前のように出てくる水。でも、青野ダムがなければそんな生活は送れなかったかもしれません・・・。

3年生社会の市内見学で、青野ダムを見学に行きました。「ダムって何のためにあるの？」そんな疑問から始まった学習。青野ダムが、人々の飲み水をためたり、大雨で武庫川が洪水にならないように人々の生活を守ったりする役割があることを知りました。

ダムの中や水の量を調節する操作室の中を見学させてもらい、子どもたちは、探検気分興味津々。ダムで働く人のような、陰で支えてくれている方々の存在によって今の当たり前前の生活が支えられていることに気づきました。

さらに、青野ダムの底には、ダムのために立ち退いてくださった人々が住んでいた村が沈んでいます。そのことを聞いて、真剣な表情になる子どもたち。毎日の生活がたくさんの人々の苦労の上に成り立っていることに感謝していました。

